

大学評価・学位授与機構 国際連携企画室

平成25年度事業実施報告

平成26年3月31日
大学評価・学位授与機構 国際連携企画室

I. はじめに

大学評価・学位授与機構は、以下の中期目標を踏まえた国際連携事業に関する主要方針に基づき、近年の高等教育を取り巻く国際的な状況を踏まえながら、海外の高等教育の質保証に関する情報を収集し、調査研究を行い、その成果を国内外に発信していくとともに、海外の質保証機関等との積極的な情報交換や密接な連携による国際的な質保証活動を行っている。

＜国際連携事業に関する主要方針＞

- ・ 機構の行う事業および日本の高等教育質保証システムの国際通用性の向上
- ・ 国際的な大学間交流について質保証の側面からの支援

国際連携企画室は、こうした状況を踏まえつつ、平成24年度からアクションプランを策定し、国際連携活動を展開している。平成25年度においては、機構の第2期中期目標を達成し、次期（第3期）の中期目標期間につなげていくために行うべき活動として、活動の「柱」となる以下の3点を設定し、各種の活動を実施した。実施にあたっては、毎回の企画室会議で必要な協議・確認を行い、実施結果や収集した関係情報・資料は、企画室メンバー間で共有を図り、機構内外に発信した。

平成25年度国際連携企画室アクションプランの柱

- (1) **高等教育の質保証に関する情報発信**（実施報告 pp.2-5）
- (2) **共同プロジェクトを含めた海外の質保証機関やネットワークとの連携事業の実施**
（実施報告 p.6）
- (3) **国際連携にかかる戦略的・重点的調査研究**（実施報告 p.7）

II. 国際連携企画室 平成25年度会議開催実績

	開催日	内 容
第1回	平成25年 4月24日	平成25年度国際連携企画室メンバー及び国際連携事業の実施体制についての協議 ほか
第2回	平成25年 5月20日	戦略的・重点的調査研究事業に関する協議 ほか
第3回	平成25年 6月24日	平成26年度概算要求の予定についての協議 ほか
第4回	平成25年 7月16日	第5回日中韓質保証機関協議会および第4回日中韓大学間交流・連携推進会議の開催についての協議 ほか
第5回	平成25年 9月10日	平成26年度大学評価フォーラムについての協議 ほか
第6回	平成25年11月13日	アジアとの連携についての協議 ほか
第7回	平成25年12月16日	第3期中期目標・中期計画及び5か年計画についての協議 ほか
第8回	平成26年 1月21日	次期アクションプランについての協議 ほか
第9回	平成26年 2月18日	英国 QAA からの評価者研修へのオブザーブ参加についての協議 ほか
第10回	平成26年 3月25日	平成26年度国際連携企画室アクションプラン（素案）についての協議 ほか

Ⅲ. 各テーマにおける実施内容

(1) 高等教育の質保証に関する情報発信

アクションプラン

平成25年度は、引き続き海外の高等教育や質保証動向等の情報収集を行った上で、(ア) 今後、新たな質保証への取組みが展開される機構等の検討に資する情報提供、(イ) 情報提供活動の向上に必要な活用ツールの充実、(ウ) 我が国の高等教育や質保証システムに対する海外からの理解促進に資する情報発信の強化、(エ) 国内の大学等が求める海外動向に関する情報発信の強化を図る。

事業実施総括

(ア) 高等教育質保証動向等に関する情報収集

海外の高等教育や質保証の動向に関し、年度当初に国際連携企画室にて、**各国・地域の特徴を踏まえた情報収集項目ならびに各国横断的に情報収集するテーマ**を設定した。それらに基づき、文献調査を強化するとともに、**国際セミナーやネットワーク会議への参加**を通じて、積極的に情報収集を図った。

機構等の評価や学位授与の在り方の検討のために必要な調査のテーマ

- ・ 学習成果を軸とした質保証の在り方や、大学の機能別分化の促進に係る取組み
- ・ ダブルディグリー等の国際的な共同教育プログラムに関する質保証
- ・ 学位および学修歴や職業資格などの認証・情報発信基盤整備事業

平成25年度における情報収集項目（国・地域別） ◎：重要度の高い事項 ○：キャパシティ次第で取り組む事項

国・地域	テーマ
中国	◎ 質保証制度の基礎情報
韓国	◎ 大学の国際化評価について
ASEAN 諸国	◎ ASEAN 域内における質保証枠組構築について ◎ AIMS による大学間交流および iAward の動向について ○ ASEM の動向について
マレーシア	◎ 2013 年に実施される MQF レビューについて
インドネシア	◎ ASEM 事務局の移行について
台湾	◎ 台湾の各質保証機関の役割と動向について ○ 質保証機関、高等教育機関および教育部の「国際通用性の向上」に向けた活動内容について
香港	◎ 香港の各質保証機関および教育関連機関の役割と動向について ○ 香港の教育制度改革による質保証機関および教育関連機関への影響について
欧州	◎ 欧州ボローニャプロセスの政策議論について ◎ 欧州を含む大学間教育プログラムに関する実施状況報告作成に向けた動向について ○ ASEM の動向について
英国	◎ リスクベース評価、クオリティ・コードについて
オランダ	◎ NVAO の国際化評価、第 2 サイクル評価実施状況等について ◎ NVAO が関わる欧州横断的な質保証の取組について ○ Nuffic の外国資格評価・大学国際化支援事業等について
フランス	◎ 機関別評価・研究評価について
ドイツ	◎ 質保証制度の基礎情報
米国	◎ 国際的な質保証の取組(CIQG)について
豪州	◎ TEQSA の登録・アクレディテーションにおける基準、実施状況等について

(イ) 機構の情報発信ツールの改善・充実

国際連携ウェブサイトについては、平成25年度上半期にオンラインアンケートを行い、閲覧者の意見やニーズ把握を行った。それを基にしながら、トップページを含む**国際連携ウェブサイトの改訂**を行った。なお、同ウェブサイトは前回平成23年度にリニューアルしており、その後**アクセス数は増加傾向**にある。

[<各年度月平均アクセス件数>平成23年度：2,009件/月、平成24年度：5,907件/月、平成25年度：9,649件]

また、インフォメーション・パッケージおよび国際連携ウェブサイトを通じた質保証に関する情報発信活動が、APQN（アジア太平洋質保証ネットワーク）10周年を記念して創設された「**APQN クオリティ・アワード**」を受賞した（受賞部門：「Quality Information Systems」/ページ下に受賞トロフィー）。

機構**英文ウェブサイト**の**評価事業部関連ページ**についても、構成変更や内容修正などの**改訂**を行った。（レイアウト変更、ネイティブチェックによる文章の修正、最新の統計の掲載等）

(ウ) 海外向けの日本の高等教育および質保証システムに関する情報発信の整備・強化

日本の高等教育質保証にかかる基本情報として、日本の質保証システム概要および第2サイクルの大学機関別認証評価実施大綱・基準の更新作業をすすめた。機構の認証評価の結果に関しては、**平成24年度認証評価結果の英文概要**を公表し、認証評価第1サイクルの検証結果の英訳版の作業をすすめた。

また、機構の事業を**英文でまとめた簡易リーフレット**（下：イメージ）を新たに作成（H26.2）し、機構が参加した国際会議等で、海外の関係者に配布した。

[>> 英文リーフレット掲載ページ](#)

海外で開催された**国際ネットワーク会議**や**国際セミナー**において、日本の高等教育質保証や機構の行う評価等について**発表**をおこなった。

(エ) 国内向けの情報発信の整備・強化

上記（ア）により収集した情報は、**海外の高等教育および質保証に関する動向記事**として、国際連携ウェブサイトにも適時掲載した。平成25年度の掲載記事は**合計42件**であった。インフォメーション・パッケージに関して、「**中国高等教育質保証インフォメーション・パッケージ**」を新たに刊行するとともに、既存版の改訂作業やドイツ版（概要）の新規刊行の作業をすすめた。国際連携ウェブサイトやインフォメーション・パッケージの情報・資料は、国内の高等教育関係者が集まる各種会議に際して、**広報資料（ちらし）**を配布して周知を図った。

平成25年7月には、**大学評価フォーラム**「学生からのまなざし－高等教育質保証と学生の役割」を開催し、学生参画による質保証に関して、欧州および国内から有識者と学生を招き、議論を行った。



APQN クオリティ・アワード
（平成25年4月受賞）



機構英文リーフレット（両面／8ページ構成）
（平成26年2月完成）

ウェブサイトを通じた質保証動向記事等の発信

【1-エ）国内向けの情報発信の整備・強化】

海外の高等教育や質保証の動向に関して収集した情報については、国際連携ウェブサイトにて、**海外の動向記事**として適時掲載し、国内向けの情報発信基盤の強化を図った。平成25年度の動向記事**掲載件数は 42 件**であった。（掲載件数の内訳は下図参照。）



また、国際的な共同教育プログラムの質保証については、国際会議への参加や文献調査を通じて収集した情報を、国際連携ウェブサイト「**国際的な共同教育プログラムの質保証－欧州のガイドライン、共同評価等の取り組み**」ページにて随時発信を行っている。平成25年度は、情報の**新規掲載が 8 件**、既存情報の**更新が 7 件**の計 **15 件**の情報発信を実施した。

[>> 国際的な共同教育プログラムの質保証ページ](#)

● 国際連携ウェブサイトのデザイン・ページ改訂

国際連携ウェブサイトについては、トップページのシンプル化や閲覧しやすいレイアウト変更を含めた**デザイン改訂**を行い、平成26年3月に公開した。（右：トップページイメージ）また、英文ウェブサイトについても、平成26年1月から3月にかけて、評価事業部にかかるページのデザイン改訂等をおこなった。



インフォメーション・パッケージの作成・発信 – 各国の質保証制度にかかる基本情報 –

【1-エ）国内向けの情報発信の整備・強化】

インフォメーション・パッケージにおける新たな刊行物として、平成25年9月に、「**中国高等教育質保証インフォメーション・パッケージ**」（右：同刊行物の表紙）を刊行した。これは、中国・HEEC の中国語出版物を参考に、当機構にて最近のデータや動向を加えながら作成したものである。

[>> 中国インフォメーション・パッケージ掲載ページ](#)

また、韓国版のインフォメーション・パッケージ（平成24年11月刊行）の追補資料として、韓国・KCUE の大学評価院が発表した、2013 年度版の「大学機関別評価認証ハンドブック」の概要を作成した。

[>> 韓国追補資料掲載ページ](#)



さらに、平成26年3月に、「**ASEAN 諸国の高等教育分野における質保証・評価システム一覧表**」（次ページ：同一覧表の写真）を国際連携ウェブサイトで発信した。この一覧表は、ASEAN 諸国の高等教育分野に

おける質保証システムや、質保証機関の行う大学評価の概要について、ASEAN 諸国間の比較ができるようまとめたものである。なお、この一覧表は、ASEAN 各国における公表文献が少ないことから、SEAMEO RIHED が2012年に発表した刊行物「A Study on Quality Assurance Models in Southeast Asian Countries」をもとに作成し、当機構にて補足を加えた。

[>> ASEAN 諸国の質保証・評価システム一覧表掲載ページ](#)

インフォメーション・パッケージや国際連携ウェブサイトの取組みを国内外の関係者に広く発信するため、広報用チラシを随時更新し、機構が主催・企画実施したフォーラムや高等教育関係者の集まる会議で配布した。

なお、「諸外国の高等教育における質保証システムの概要：ドイツ」や、アジア地域の高等教育質保証システムの概略（Briefing Paper）のマレーシア版、インドネシア版の新規作成にむけた作業をすすめるとともに、「諸外国の高等教育における質保証システムの概要」の日本、英国、豪州各版は、第2版のための改訂作業を実施した。（これらはいずれも平成26年度中に完成見込み）

大学評価フォーラム

【1-エ）国内向けの情報発信の整備・強化】

平成25年7月22日に「**学生からのまなざし—高等教育質保証と学生の役割**」と題した**大学評価フォーラム**を東京で開催した。高等教育という学びの場の主人公である学生の役割に焦点をあて、学生参画による質保証に関して、欧州における歴史的背景や基本的考え方、その実施の実態を理解し、欧州諸国において質保証事業に参加した学生の経験を共有しながら、わが国における学生参画による教育改善の試みの事例報告も交えつつ、高等教育質保証の将来のあり方について議論を深めた。本フォーラムは2つの基調講演後、4つのテーマに分かれてグループセッション（GS）を実施した。当日は、国内外の高等教育関係機関から400人を超える参加があり、当日のアンケート結果から、参加者の高い評価[※]を得ることができた。



[>> 平成25年度大学評価フォーラムページ](#)

※ フォーラムの満足度について、「とても良かった・まあまあ良かった」の回答は78.7%であった（回答数：211件）。（※本設問は5段階で調査）

●大学評価フォーラム機構内研究会

大学評価フォーラムの翌日（7月23日 於：機構竹橋オフィス）に、フォーラムの海外登壇者3名（Helka Kekäläinen フィンランド高等教育評価カウンスル事務局長、Dan Derricott リンカン大学学生参画オフィサー、Nik Heerens エクセター大学 PhD 研究員）を講師に招き、機構内教職員を主な対象として研究会を実施した。フォーラムでの論点をさらに深めるとともに、欧州における質保証の取組み、特に学生参画を中心に、ディスカッションを行った。

（２）共同プロジェクトを含めた海外の質保証機関やネットワークとの連携事業の実施

アクションプラン

平成25年度は、各機関と共同で行う既存のプロジェクトを発展させるほか、交流実績の少ない機関等との協力による相互理解の促進を一層図る。

事業実施総括

（ア）日中韓連携

日中韓質保証機関協議会に関しては、平成25年8月に第5回の協議会（於：東京／写真左）を主催した。協議会に設置された3つのプロジェクトグループ（PG2）について、中国・HEEC および韓国・KCUE と進捗状況の共有を図り、今後の活動について協議を行った。

機構が主査を務めるPG2の主たる活動である「キャンパス・アジア」における質保証の取組み（10のパイロットプログラムに対するモニタリング）については、協議会や個別会合を通じて、各国の1次モニタリングの基準・方法について共有を図った。

日本側の1次モニタリングは、平成25年4月に開始し、書面調査、訪問調査、専門部会での審議を経て、平成26年1月のモニタリング委員会において、モニタリング結果を決定した。モニタリング結果は、パイロットプログラム毎の報告書としてまとめ、教育の質の観点から抽出した優れた取組み（10プログラムで合計146件）等を掲載。また、外部質保証活動への学生参画という観点から、モニタリング学生部会を設置し、「キャンパス・アジア」プログラムに参加経験を持つ学生を全国から集め、平成25年12月にワークショップを開催した（写真中央）。参加学生により「キャンパス・アジア」の更なる深化に向けて提言書をまとめた。

日本側の1次モニタリング活動の成果は総括報告書（写真右）にまとめ、平成26年3月に公表した。

[>> 日中韓協議会ページ](#)

[>> モニタリングページ](#)



（イ）欧米やアジアとの連携

海外の覚書締結機関を中心として、これまで築き上げてきた関係を基盤に、共同プロジェクトや人的交流、連携した取組みを展開した。マレーシアのMQAとは、両機関の行う評価にかかる相互認証の実現可能性を検討するための合同専門委員会が平成26年1月に発足した。フランスのAERES主催セミナー（平成25年11月）では、岡本理事が招へい発表を行った。また、APT（ASEAN Plus Three）質保証専門家会合（平成26年3月）を開催し、ASEAN およびプラス3（日中韓）の質保証機関との交流機会の拡大を図った。

以上のほかにも、覚書締結機関や海外の交流機関とは、APQNやINQAAHEの国際的ネットワークの会議をはじめ、高等教育の質保証に関する国際会議で、情報交換や連携協力にかかる協議を行い、人的ネットワークの拡大とともに、すでにある連携体制の強化を図った。

また、海外の質保証機関や教育担当省から機構に来訪があり、懇談や機構の事業紹介を行った。

（３）国際連携にかかる戦略的・重点的調査研究

アクションプランおよび事業実施総括

（ア）東アジアにおける国際的な共同教育プログラムの質を保証するための手法に関する調査（東アジア調査）

●調査の趣旨

機構がこれまで進めてきた「キャンパス・アジア」のモニタリングの基準や実施方法は、日中韓三国にとどまらず、広く東アジアへの展開を見据えた設計としている。したがって、本調査では、モニタリングの取組みを発展的に活用し、東アジアの大学や質保証機関が、国境を越えた共同教育プログラムの質を確認・保証する際に活用し得る、実践的な手引き等の手法の開発を目指す。

●平成25年度（３か年計画の初年度）の実施総括

ASEAN 諸国における高等教育の制度的背景や動向、大学・社会との人材流動の事情等を把握するため、国内の有識者による検討会（H25.5）やASEAN+3高等教育質保証フォーラム（H25.10）、SEAMEO RIHED 関係者を招いた研究会（H25.10）を実施した。また、プログラムの現状把握にあたっては、ASEAN 諸国との学生交流プログラムを展開する日本の大学へのヒアリング調査（９件）をはじめ、有識者との懇談、国内外の関連セミナー参加等を行った。

ヒアリング調査を通じて、プログラムの類型を整理するとともに、質保証の観点から捉えた、日本の大学における取組みの傾向や課題を把握した。その後、調査で得た内容を整理し、次年度には調査範囲を広げ、さらに検討することとしている。

（イ）学生移動（モビリティ）に伴い国内外の高等教育機関に必要とされる情報提供事業の在り方に関する調査（モビリティ調査）

●調査の趣旨

国内外の学生移動に伴い必要とされる情報提供やその他支援事業の在り方について調査を行い、日本におけるナショナル・インフォメーション・センター機能の位置付けや具備すべき業務を明確にする。そのうえで、国内外の高等教育機関および関係機関にとって理想的なセンターの在り方について調査結果をまとめる。

●平成25年度（３か年計画の初年度）の実施総括

学生移動に伴い必要とされる情報提供や支援のあり方にかかる調査については、海外で取得された学位資格や学習履歴の認証に関する国内外の状況を把握するための検討会の開催を皮切りに、大学における学生の国際的な流動化を促進するために必要な今後の支援の在り方について検討するための国内大学の教職員を対象としたオンラインアンケートを設計し、平成26年２月からアンケート調査を開始した。アンケートは、外国での学習履歴の審査や海外で修得した単位の認定の審査手続き上、主にどのような情報が必要とされているか、大学の実務に携わる教員および職員を対象としたもの。アンケートは平成26年度にかけて実施中であるが、平成26年３月末現在で延べ 1,536 件の回答を得ている。なお、アンケート設計の過程で、外部有識者や大学関係者へのヒアリングを実施した。

アブリビエーションの正式名称（A B C順）

A E R E S （アエレス）

Evaluation Agency for Research and Higher Education（フランス研究・高等教育評価機構）

MQF （エム キュー エフ）

Malaysian Qualifications Framework（マレーシア資格枠組み）

A I M S （エイムス）

ASEAN International Mobility for Students Programme（ASEAN学生交流プログラム）

N u f f i c （ヌフィック）

Netherlands Organization for International Cooperation in Higher Education（オランダ高等教育国際協力機構）

A P Q N （エー ピー キュー エヌ）

Asia-Pacific Quality Network（アジア太平洋質保証ネットワーク）

N V A O （エヌ ブイ エー オー）

Accreditation Organisation of the Netherlands and Flanders（オランダ・フランダースアクレディテーション機構）

A S E A N （アセアン）

Association of South-East Asian Nations（東南アジア諸国連合）

Q A A （キュー エー エー）

Quality Assurance Agency for Higher Education（英国高等教育質保証機構）

A S E M （アセム）

Asia-Europe Meeting（アジア欧州会合）

S E A M E O R I H E D （シーメオ ライヘッド）

Southeast Asian Ministers of Education Organization Regional Center for Higher Education and Development（東南アジア諸国教育大臣協会高等教育開発センター）

C I Q G （シー アイ キュー ジー）

CHEA International Quality Group（CHEA 国際質保証グループ）

T E Q S A （テクサ）

Tertiary Education Quality and Standards Agency（オーストラリア高等教育質・基準機構）

H E E C （エイチ イー イー シー）

Higher Education Evaluation Center of the Ministry of Education（中国教育部高等教育教学評価センター）

I N Q A A H E （インカヘ / インカヒ）

International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education（高等教育質保証機関の国際ネットワーク）

K C U E （ケー シー ユー イー）

Korean Council for University Education（韓国大学教育協議会）

MQA （エム キュー エー）

Malaysian Qualifications Agency（マレーシア資格機構）